

マルセイニュース 10月号

発行日 2016/10/21

株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目

〒057-0005 TEL0146-22-5123



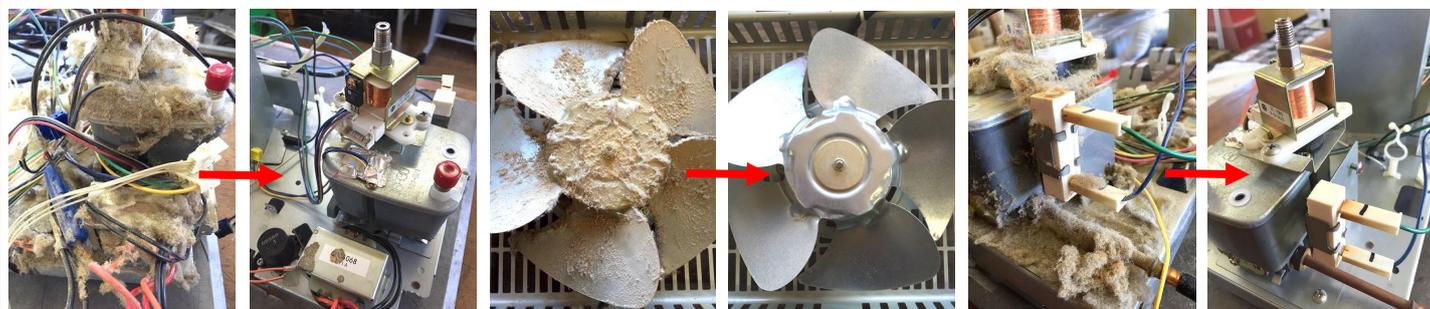
やっぱり鮭が獲れなくっちゃ！

寒さの到来と共に海水温も下がり、ようやく鮭が獲れ出した浦河港。今年も三協水産さんの漁吉丸に乗船させていただきました。この日は豊漁！迫力ある漁の風景は圧巻でしたよ～。今年の鮭の価格は、前半の不漁もあって高値のようです。今年のいずしや贈答用の鮭は、高価なものになりそうですね。



左のセピア色の写真は昭和の定置網漁の様子で、右は平成。時代の変化が見てとれます。おっと！右はご愛嬌？ごめんなさ～い^^

1、写真は春定置でしょうか？ 機械化されていない当時は、今よりもっと貴重な労働力として、女性たちも漁業を支えていた様子が伝わります。



燃焼に大切な部分も、長期使用でほこりでいっぱい

分解整備をすると…こんなに違います！



10月中旬から、ストーブの調子が変わります！と寒さと共に駆け込みの修理依頼が増えていきます。これから来る冬に備えて、絶対に必要な暖房器具の点検は必須ですよ～。寒さ本番を迎えるからあわてなくてもいいように、もう一度しっかりとご自宅の暖房器具をご確認ください。

寒くなつて使い始めたストーブに、「異臭がした」「変な音がする」「燃えが悪い」などの不具合を感じたなら、どうぞお早めにお問合せ下さい。

（ペットを飼っている方は、お家の場合、このほこりの他さらにペットの毛が加わりま

す。煙草を吸う方がいらつしやるご家庭だと、器具全般に黄色くタールが付着して

います。（その状態を見ると、喫煙される方の肺はこんな風にタールまみれになるの

かな？と、ちよつと怖くなりますよ。）

写真、今月分解整備させていただいたストーブからの一例です。燃焼に必要な燃料ポンプ、送風ファン、燃焼モーターのどれもが、ほこりにまみれて窒息状態なのが

お分かりいただけますね。ペットを飼っている方は、お家の場合、このほこりの他さらにペットの毛が加わりま

す。煙草を吸う方がいらつしやるご家庭だと、器具全般に黄色くタールが付着して

います。（その状態を見ると、喫煙される方の肺はこんな風にタールまみれになるの



イキイキしてますね^^



ついに“廃車”のときを迎えてしまいました…

さようなら、リフト車！

2004年10月に納車されて以来、本当によく頑張って働いてくれた私たちの『リフト車』。もう一年だけガンバッテ欲しい！という願いは叶わず、車検切れの9月末ついに廃車となってしまいました。今日までありがとう！みんなと一緒に色々な仕事をした日々を思い返しなが、感謝の気持ちと共に別れました。



残念ながらついに、この車もあきらめる時が来てしまいました。いつ車体が落ちるかかわらない程の傷み具合だそう

です。今回はさすがに車検をお願いすることも無理だとい

うことで、廃車の決断をするしかありません。

しばらくはリフト車がない体制で仕事をするマルセイですが、必要なリフト車が手に入るのはいづかな？

9月30日（金）、12年使用したリフト車にお別れをしました。LPガスの運搬やゴミの

収集運搬作業など、とにかく大活躍した車でした。毎年

車検を受ける営業車ですが、この数年は、あともう一年だけ何とか頑張つて！と祈

るような気持ちで車検をお願いしてきていたのです。

残念ながらついに、この車もあきらめる時が来てしまいました。いつ車体が落ちるかかわらない程の傷み具合だそう

です。今回はさすがに車検をお願いすることも無理だとい

うことで、廃車の決断をするしかありません。

しばらくはリフト車がない体制で仕事をするマルセイですが、必要なリフト車が手に入るのはいづかな？

とにかくたくさん
みんなと一緒に
仕事をした車でした



春夏秋冬、どの季節もみんなと一緒に力を合わせて頑張った数々の仕事。こうして改めて写真を見ると、どの現場にも懐かしい思い出と共にリフト車の姿があります。

今年の北海道は台風の恐ろしさを実感しましたね。雨漏りはもちろん、強風でプレハブの事務所がひっくり返ってはいないかと心配でした。



昨年はできずに冬を迎えてしまった木柵のペンキ塗りも、今年は若者たちの力で無事に終了。ガス庫の壊れたシャッターも改修して、塗装も終了～。

今年環境整備は、うーんと頑張りました！ マルセイの「2016環境整備」は、ひと段落！

5月から取り組みはじめた社内の環境整備。今年の色々と修繕の必要がありました。

まずは事務所の雨漏り対策から。今年は大雨の日が多かった中、何度かコーキングを重ね、ついに修繕することができてひと安心。次に、傾いていて怖かったトイレです。トイレも雨漏りがひどかったため、床下の改修工事が必要でした。床板もクッションフロアーも張り替えて、便器も新しいものに交換。お陰様で、今では安心して使用しています。大切な場所ですよ。(笑)

そして、今年の夏はずいぶん草が伸びましたね。おかげで何度も草刈や草取りが必要でした。

朝夕と寒くなった10月。若者たちが木柵のペンキ塗りを行いました。防腐効果があるペンキなので、これでまた何年間かは木柵も持つでしょう。

さて、これからはいよいよ、燃料店の繁忙期を迎えます！(迎えない！笑)
この冬も、事故のないように安全を心がけながら頑張ります！



寒さがやって来ました！ 冬本番に備えて、灯油タンクの交換

『灯油タンクの無料点検』は、当社の定期配送をご利用いただいているお客様へのサービスのひとつとして毎年実施しています。屋外設置の大きなホームタンクが中心ですが、屋内に設置している90リットルタンクの点検を行うこともあります。長期使用による経年劣化が不安で点検をご希望の方はお問い合わせください。

さすがに10月です。肌寒い日が出て来て自宅も事務所もストーブを使い始めました。今月も、当社の若者たちがタンク交換に取り組みました。寒さが本番を迎える前に終わっておきたい仕事です。

順調に経験を積んでいるキョウちゃんの様子を見て、「よし！今日の交換工事はオレは行かないぞ。」と社長が言ったのは8月のこと。以来タンク交換工事は、すっかり安心して若者たちに任せています。

■ チームワークも バッテリーOK！

今月の現場もエイジくんの強力な応援も加わって、少々難儀なことがあってもバッテリー！いちばん若くてまだ経験の浅いケイスケくんも、優しく指導を受けながらひとつずつ経験を積んで力をつけています。

工事現場をのぞいてみると、技術も力仕事もみんなで和気あいあいと力を合わせながら、タンク交換に取り組んでいます。どちらの工事も無事に終了。今月はもう1軒、タンク点検の結果を受けてタンクの交換を決心されたお客様のお宅へ工事にお伺いします。ご依頼ありがとうございます！



ホームタンクは、本体の下あたりが錆びてきたら要注意です。もしも灯油が滲んでいたなら、その時は交換が必要です。

2. 屋食にガッツリとご飯を食べた直後の工事。かがむ姿勢が多い時は大変です。そうでなくても、かがむのが大変なのは私ですが・・・マックス



地元のさかなで！ 『磯場屋学校』 10月9日(日) 青少年ホーム調理室



今年で7年目になる「磯場屋学校」。材料の魚はすべて地元産で、地元の魚の美味しさや、磯場屋の存在を知ってもらいたいという思いからスタートしました。今回はイカの塩辛と一夜干し、いくらの醤油漬、さらにもう一品、船上メのヒラメを昆布でめて持ち帰り！というとても豪華なメニューでした。

今回の10名の参加者のほとんどが、浦河に移住された方や転勤してこられた方々でした。町民有志によって続けられている磯場屋学校は、浦河の「食」の魅力に限らず、きつと浦河の「人」の魅力も伝えていけるのだと、見学に行つてそう思いました。

ここで学び、特製の修了証を授与された卒業生は今までにおよそ70人。そのうち多くの方が転勤で浦河を離れられたようです。でもきつと、鮭が遡上するニュースが流れるこの季節になると、磯場屋学校と浦河のことを思い出してくれていることでしょう。



『新そば祭り』

大通り4丁目商店街実行委員会主催
10月10日(月)文化会館ふれあいホール



商店街のおそろいのはっぴ姿でお客様をおもてなし。とても賑わった会場風景です。

★『まちゼミ』がパワーアップ！

以前、商店街で取り組んだ「まちゼミ」で「お料理 松山」さんが実施した新そば祭り。今年はグリーンとパワーアップして、4丁目商店街の有志からなる実行委員会を発足し、文化会館を会場に、『新そば祭り』が開催されました。

この日のために用意された新そばは300食。前売りだけで200食分が販売されましたが、予想以上の大盛況でした。当日は、商店街の実行委員と多数の町民有志の協力を得て運営されていました。中には、この日のためにわざわざ転勤先の網走から駆け付けてお客様におそばをふるまっていた方もいました。浦河を盛り立てようと尽力する人とそれを応援する人がいる浦河です。みんなで生みだした賑わいの『新そば祭り』でした。



オホーツク農大マルシェ
出張販売！



★『浦河町』をPR！

2年前、東京から浦河にUターンした永田貴之さんが获伏に起業した「マイクソーセージ」さん。今では浦河を代表する商品として紹介されるようになったマイクソーセージは、ふるさと納税はもちろん、各都市で開催されるふるさと物産の販売などを通じて、機会あるごとに「浦河町」をPRしています。

今回は永田さんご自身が、出身母校である網走東京農業大学の収穫祭学園祭に出向いて、浦河町を熱烈PRしてきました！

Youは何しに浦河へ?

10月12日(水) 青少年ホーム 19:00~21:00 参加費500円

40回を迎えた地域デザインカフェ。しばらくお休みしていたにも関わらず、25人の方にお越しいただきました。今回のテーマは「YOUは何しに浦河へ?」とタイトルは某有名TV番組をリスペクトしました。



浦河に移住された方々にインタビューをしながら、最近、新しく来た方々とのネットワークづくりの場にできればなあと思っ
てのテーマです。

初めて参加された方が多く、乗馬療育に携わる方、学校の先生、そしてとにかく浦河に住みたいから来た!と、移住してまだ数日の方など多様でした。

緊張を解くための簡単な自己紹介ゲームの後は、早速「YOU」にインタビュー。観光協会事務局長に赴任された上新雅人さん、浦河に移住して1年が過ぎた主婦の野上由佳さん、浦河町が用意しているシェアハウスで暮らすのを楽しみに移住した清水聖子さんの3人からお話を聞きました。浦河に住み始めた理由はもちろん、それぞれバラバラです。ただ共通しているのは「人」との出会いのようでした。

上新さんは就活の面接で浦河に来るまで、一度も日高に来たこともなかったそうです。面接を通してすでに働いていた観光協会のスタッフと出会い、この仲間たちと働きたい!と思い、合格できるようにと神社に願掛けにまでいったとか。

浦河には知人が何人か移り住んだことから縁が繋がったという清水さん。「素敵な人が選ぶ町はステキな町だと思つたから」と仕事が決まる前から、浦河に住みたいと思っただけで、先ずは来たそうです。野上さんのご主人は、元北海道職員。家族最



異業種の方との出会いがあります。ここで出会った人とは、次に町で会った時にご挨拶できますね。

初の赴任は、お客様気分です。浦河へ。たくさんの素敵な人との出会いにも恵まれ、転勤で離れたものの浦河で暮らすことを決心。土地を探して家を建て、転職までして浦河へ移住したそうです。

この3人の他にも、何しに浦河へ?とお話していただきました。仕事があつたけだつたり、異動があつたけだつたり、あるいは住みたくなって移り住んだり色々な方がいましたが、共通して出てきたのは人の話題でした。

「誰もが幸せな町やいい人しか住んでいない町」はなかなかないと思いますが、この町に来た人と地元の人が「良いご縁に恵まれる場」としても、これからも地域デザインカフェを続けていきたいと思っました。

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会
村下知宏

休憩時間に用意されたのは、大通り4丁目
の甘泉堂さんのお菓子「チョコロール」でした。バタークリームもおいしいですね。



楽しくイベント開催! 『きままるしえ』 10月10日(月) 六畳書房「かぜて」スペース



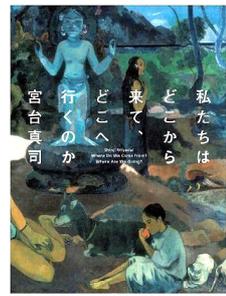
六畳書房の空きスペースを利用して、5人の仲間ですべて初めて開催した『きままるしえ』。楽しく気ままにマルシェ(市場)をやってみよう!と、手作りの温かみのある作品販売やフリーマーケット、こどもと一緒に楽しめるワークショップまで用意されていました。これ買える!という価格設定もうれしかったです。思わずいくつも購入して、ベビーギフトに利用させてもらいました。「初めての試みでたくさん課題や、改善点など出てきましたが笑顔笑顔の1日中楽しいイベントでした!」と主催されたみなさん自身も楽しそう!ここでも、やりたかつたことをやちやつた元気な人たちに会えました。



六畳書房が、「HO」という雑誌の【浦河残したいもの対決】で大黒座と一緒に紹介されまし



最近読んだ
本の中より…



世の中が変わると 人の考え方も 変わっていく

著者の社会学者・宮台真司さんは、1959年生まれでわたしとほぼ同年代です。たしかに爆竹遊びは男の子ならたいがいやっていましたね。宮台さんの言うとおり、いまこんな子どもがいたら大変です。「普通じゃない」と、病名までついてしまうかもしれないかもしれません。なぜ戦後間もない頃の子どもは、こんなことをしたのでしょうか。たぶん、鶏の首を庭先で刎ねるのが珍しくもない時代には、動物を殺すことへの抵抗感の敷居が低かったことがあつたでしょう。あるいは、〈男らしい〉と他人に思われるような振る舞いをするのが、今では想像つかないくらい重要なことだったから、子どもたちはしたのかも知れません。社会学とはこういうふうには、世の中そのもののなかへ〈出来事の原因〉を探す学問です。爆竹遊びをする子どもは残酷だ、というふ

『私たちがどこから来て、どこへ行くのか』

宮台真司著(1859)

株式会社冬舎 発行



僕が子供の頃は、甲虫やカエルに爆竹を仕込んで爆破させる遊びが、小学生の男の子たちの間では標準的でした。僕のように転校で6つの小学校に通った男の子はこうした遊びにビビっていたら、ヘタレ扱いをされて立場を失ってしまいます。だからむしろ僕もこうした遊びをしました。いまだっただろうでしょう。おそらく医者に連れて行かれて「反社会的人格障害」か「行為障害」のレッテルを貼られるでしょう。当時と今では、何が標準なのかが異なるのです。(本文より)

うに子どもの性格に原因を押しつけません。わたしは社会学のこういう考え方に興味をひかれて、宮台さんの本を長年読んできました。

爆竹遊びとは反対に、「今の世の中は昔ならあり得なかった残虐な事件が起きる、どうして今の人はこうなんだろう？」と思うことはないでしょうか。わたしはあります。この〈今の世の中〉に、58才の自分はなぜか含まずに若い世代は人としてな

にがしが欠けている、困ったものだ…というふうには考えたが自分があるのです。しかしそういう考え方はよくありません。

理解しがたい事件も 世の中の要請に 合致することがある



数ヶ月前に施設の元職員による障害者の大量虐殺事件がありました。驚くべき事件です。しかも当人は善いことをしたとまで考えてい

ます。こんな恐ろしい事件は昔はなかったし、それを正義のためにしたなどと考える人間はいなかったはずだ。ある程度年齢を重ねた人なら、こんな非人間的な出来事は記憶に見当たらないと考えてしまうかもしれません。

社会学は、なぜそういう理解しがたいと見える事件が起きるのか、世の中の内側に原因を探していきます。玉ねぎの皮を一枚ずつはぐように、原因の原因、そのまた原因と探していくと、想像を絶すると思われた事件や人物の振る舞いも、世の中の要請に合致しているということが分かってくるといいます。むしろ一見変わって見える(人)人は、実は世の中の変化を察知して自分の考えを(露骨に)調整した結果、その露骨さが人々を不快にさせているだけかもしれません。

あの事件の犯人は、(彼が考える)役に立たない人たちを世の中から減らせれば、私たちが褒

めてもらえると思つて声明文まで作つたでしょう。たしかに異常です。しかし、です。犯人の考えは世の中で本当に(異常)でしようか。考えではなくて、その露骨さが異常なのではないでしょうか。本書を読み進めながら、しきりとあの事件のことを考えてしまいました。

仕事でもマニュアル化が進み、労働者の流動性が高まつたことも世の中には大いに影響があります。人と長く深く付き合う機会が減り、短期的なら対人能力は要らないともいえます。

一貫性がない方が 今の世では役に立つという 暗黙のメッセージ

著者によると、昨今の企業研修や就活のマニュアルでは臨機応変に相手や場の要求に応じたパフォーマンスができることが重要で、そのための「引き出しを整えること(いろんな自分になること)が要求されているのだそうです。つまり、人としての一

貫性が無い方が世の中では役に立つと若者は教えられているわけで、少年犯罪の精神鑑定で使われるようになった「解離化」を社会が奨励していると、著者は言います。解離化とは、場に応じた人格の使い分けが著しく、統括する人格が存在しないということ。著者はこう続けます。

一口で言えば、へまともに生きることよりへうまく生きることにが奨励されています。親や教員による教育においても「うかうかしていると負け組になるぞ」「ああいう落伍者になつてもいいのか」というメッセージがもつぱらになります。かつてなら「あさましき」あり方として非難されたことが、奨励されています。かくして僕らはいま、あるべき社会について重要な分岐点に立っています。(本文)

本書は難しい箇所も多々ありましたが、最後まで面白く読みました。長年読んできて思いますが、宮台さんが一貫して言い続けているのは、「あさましい」生き方や振る舞いはオレはしないが君はどうだ?という事です。ふりかえると自分の中に「あさましさ」はすぐに見つかりました(笑)。それでも尊敬する同世代を今後も見習つていこうと思つています。

社長





辛みにラー油を加えてもおいしいかもね〜



ガスでおいしくクッキング！

社長にも作れた！ 簡単マーボーなす

当社の社長のように、普段料理をしない人でもガスを使っておいしい料理が作れます！今回はその代表のようなレシピでしょうか。材料のなすを豆腐に変えてマーボー豆腐にしてもいいですね。お試しください♪



●材料（4人前）

豚ひき肉 250g
 なす 適量
 長ネギ(白い部分) 適量
 にんにく(みじん切り) 1片
 しょうが(みじん切り) 1片
 ごま油 少々



A

甜麺醤(または味噌) 大さじ1〜
 豆板醤 大さじ1〜
 しょうゆ 小さじ1〜
 砂糖 小さじ1〜
 ガラスープの素 小さじ1
 水 1〜1.5カップ
 片栗粉 小さじ1〜

●作り方

- 1、なすは揚げるか多めの油で炒め揚げる感じで火を通して、一度取り出しておく。
- 2、フライパンに油を加え、にんにく、しょうがを炒めて香りが出たら、ひき肉を入れて炒めます。
- 3、次に、あらかじめ混ぜておいた合わせ調味料Aを入れます。ここで自分好みの味に調整してください。(社長は汗かきのキョウちゃんのために、豆板醤の辛みを控えた味にしていました^^)
- 4、なすを戻し入れて、一緒に細かく切った長ネギも入れます。(なすを炒め揚げにした社長。このタイミングでなすを試食。少し硬めだったなすに少し加熱して調整しました^^)
- 5、水溶き片栗粉を加えて好みのとろみを付け、最後に香りづけのごま油を一回りかけて完成！



お父さん、作ってみてね^^

試食した人	今日の料理は★いくつ？(最高★3個?)
キョウちゃん (3.0)	★★★★ おいしいです。辛いのも嫌いじゃないですよ
ケイスケくん (3.0)	★★★★ ごはんがすごく進むんで星はみつつです。
マックス (2.8)	★★★ 得意のインスタントラーメンの他に、こんどからはこれも家でも作ってほしいなあ〜。
ばわふる (2.8)	★★★★ うん。ふつうー。でも、おいしくできたね^^
社長 (3.2)	★★★★ 今日うまいったなあ〜。星の数？普通のマーボーなすだけど、俺がおいしく作ったということも考慮したら、星の数はこうなったということだよ^^

いやいや珍しいことです。今回は社長が高得点をマークしましたよ〜。自分の料理の出来栄えにすっかり満足したのか、「うん。辛みはこれくらいかな？俺はもう少し辛くてもいいけど、恭平とばわふるは辛すぎると汗かくからなあ〜」な〜んて、味の調整にも余裕があった社長でした。こんなこともあるのですね。

実は、料理開始直後にサラダ油がないことが判明。それでもあわてずにそれぞれ少しずつ残っていたありったけのサラダ油とオリーブオイルを絞り出してなすを炒め揚げしました。最初に「ふつうー！」と言っていたばわふるも、刻みキャベツにマーボーなすを絡めて食べてから「う〜ん。おいしかった！」と満足した様子。社長でも作れる簡単でおいしい『マーボーなす』でした。各ご家庭のお父さんたちにも、ぜひ挑戦していただきたいメニューです^^





社長のちよつと長いコラム

『街路樹』

わたしが浦河高校に通っていたのは、1974年から77年の春まででした。平屋の校舎でした。高校が総平屋なんて、今では想像が難しいでしょう。各教室が枝葉のように廊下伝いに続いていた、広い敷地をそれはぜいたくに使った校舎でした。その後80年代のある時期に、現在の鉄筋コンクリートの校舎に建て替えとなったと記憶しています。同じ頃に東町の町道を広くする工事がおこなわれたと思うのですが、それが校舎の新築と同時期だったのか数年前後していたのかは、これもまた記憶が曖昧でよく憶えていません。忘れていないのは、拡幅する前の浦高の周りには美しいプラタナスの並木があったことです。



小学校の6年間は歩いて、中学の3年間は自転車、並木の下を学校へ通いました。あの並木をわたしと同世代か上の方なら憶えているではありませんか。記憶の中では、とても立派な並木だったのです。道路の拡幅工事とともに、その樹木をすべて切ってしまうと聞いたとき、もったいないなあと思いました。そのことを当時町議会議員をしていた母にも言いました。いろいろと調べてくれましたが、道路を良くすること

生活の利便性向上と景観の保護では、勝負になりません。ましてや田舎町で、樹木なんてそこいらじゅうにあるのですから。田舎で生まれた田舎者だからこそ、環境保護より便利さを選ぶ気持ちはわたしの中にも間違いなくあります。子供の頃から通った並木にさほどの情熱もなかったわたしは、それを失うことをあつさりとして受け入れました。



とところで、もしあの並木が残されて、今、伐採計画が持ち上がったときたらどうかと考えました。残したい、とけっこう強く思うでしょうね。また、残せるとも思います。多くの町の人たちが残したいと思うだろうと推察できるからです。昔と比べると後の世代へ残そうよとか、病院の窓から眺める人たちも楽しみにしているとか、そういう数値では測りづらい価値もないがしろにされない世の中になってきました。利益が相反することがらを決めるときに、「行政が勝手に決めないでこれからみんなで考えよう」と場合によっては誰もが言っている、そういう世の中になってきたのだと思います。

今回このコラムで、東町にあったプラタナス並木のことを思い出して書いたのは、東京で100年も続いている街路樹を伐採する計画が進んでいて、それに反対する人たちが活動していることを知ったからです。オリンピックのために300本の街路樹を切るのだそうです。「2週間で終わるオリンピックのために100年続いている並木を消滅させていいですか?」という問いかけは説得力があります。行政が一度執行を決めたことをくつがえすのはかなりハードルが高いですが、それでもときには、勝手に決めないでと言っているのだと、この活動は教えてくれています。応援の署名をしました。



栗のぼわふる日記

恭ちゃんときつちゃん二人でのランチタイムのこと。「今年、もう一回栗拾いに行きたいね」ときつちゃん。そこで私は、「そうだね。今日あたり行かないとなくなっちゃうね」と祝日の今日は早目に会社も終わるので、それから行こうと提案。そこでノリノリのきつちゃんは、「恭ちゃんも行くよ!」とお誘い。恭ちゃんは、「会社が終わったら釣りに行こうと思っています。それでもきつちゃん、恭ちゃん、魚釣りより栗拾いのほうが収穫あるよ!」ともう一度お誘い。断れずにいる恭ちゃんに、「恭ちゃんはお釣りに行っておいで」と栗拾いの話はここで終了。ところが数分後、「やっぱり、釣りは止めて圭佑も連れて栗拾いに行きます。確かに魚釣りより収穫があるのは間違いないですよ」と、この恭ちゃんの言葉で栗拾い決行!

最初に行った場所は、まだイガが青々としていて木についたままで、既に落ちてるのは先に拾われ、あまり収穫はなし。それでも四人の袋には栗がそこそこ入っていて、恭ちゃんが「何も釣れずに待っている釣りより収穫があるので楽しいです!」と言うので、もう少し拾わせてあげたいと思い、更に別の穴場へ移動。浦河の山から山へとドライブ。途中、恭ちゃんが「この辺りをトレーニングするのにランニングする時もあるんですよ」と、それを聞いてきつちゃん「やめなさい、こんなところ熊が出る熊!熊!」と驚き顔。確かに熊が出そうな山奥…。そして現地到着。がしかし!穴場と思っていたのは私達だけで、栗はすっかり落ちてしまっていて、全て拾われ、残骸しかありませんでした(泣) それでも栗ご飯を作るだけの収穫があったので満足。これにて今年の栗拾いまつりは終了。



そして帰り道、私ときつちゃんは浦河に半世紀暮らしているのに初めて通る山道を若者のナビで体験して帰ってきました。まだまだ浦河に知らないところがあったのね。



発行 株式会社マルセイ
灯油・プロパンガス販売・機器修理
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3500部
【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com
【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください
〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3
TEL 0146-22-5123

冬季期間(10月~3月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~6:00 土曜3:00